

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 JTM とくしま日本語ネットワーク

1. 事業の趣旨・目的

平成 22 年度まで月1回実施してきた、日本語の支援を必要とする小・中・高校生を対象とした「にほんご寺子屋」を、親子にほんご寺子屋「子ども部(通称子ども教室)」として週1回の実施に拡大し、小グループ学習(以後個別学習と称す)と集合学習(以後全体学習と称す)の2部構成で教科学習に必要な日本語の定着を図るとともに、年齢や国籍を越えて子ども同士がともに考え学びあえる場を提供する。

また、新たに、月1回、日本語の支援を必要とする保護者のための教室「親部(通称親教室)」を併設し、学校教員や保護者同士とのコミュニケーションに必要な日本語やマナーの習得および通知文を理解する日本語力の習得をめざす。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月7日 15:00~18:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室	兼松 文子 山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 長町 順子 玉置 房 森 清 真鍋 憲昭 森井 哲也	1. 開催要項について 2. 会場提供依頼についての報告 3. 文化庁提出書類の検討 4. 県教委等への後援依頼について 5. 今後の運営について 6. 親子にほんご寺子屋設立準備会について	1. 開催要項について 開催要項について検討した。 2. 「親子にほんご寺子屋」会場提供依頼についての報告 3. 文化庁提出書類の検討 1)事業計画書について検討 2)任意団体に関する事項 団体名、団体の目的 4. 県教委等への後援依頼について 5. 今後の運営について 工程表に基づいて業務の確認および分担を検討した 6. 親子にほんご寺子屋設立準備会について 協議予定内容を検討した
5月14日 15:30~18:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)小会議室	兼松 文子 山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 西田 知子 長町 順子 古山 陽子 玉置 房 竹治 博 森 清 真鍋 憲昭 木内富美子 杜 美智 岡 久美 大坂 庄司	報告事項 1. 開催要項の説明 2. 現在までの報告 <子ども部> 1. 第1回までの準備 2. 運営方法(案) 3. その他 <親部> 1. 6月7月の日程について 2. 講義内容の決定	報告事項 1. 開催要項の説明・辻 2. 現在までの報告・辻 協議事項 <子ども部> 1. 第1回までの準備 工程表に基づき進捗状況・役割分担の確認をした。 2. 運営方法(案) 1)今後の運営委員会の持ち方 2)1日の流れの確認 3. その他 <親部> 1. 6月7月の日程について 2. 講義内容の決定

		森井 哲也	3. 担当講師の募集について	3. 担当講師の募集について
5 月 22 日 15:30～18:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室	兼松 文子 山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 長町 順子 玉置 房 森 清 真鍋 憲昭 森井 哲也	1. 事務資料の確認について 2. 子ども部の運営について 3. 親部の運営について	1. 事務資料の確認について 2. 子ども部の運営について 1) 6月の確認 2) 7月の全体学習担当者の確認 3. 親部の運営について
6 月 12 日 10:30～12:30	徳島県国際交流プラザ(トピア)ロビー	兼松 文子 山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 玉置 房	<親部> 1. 事務事項・ 2. 年間カリキュラムについて 3. 授業について	<親部> 1. 事務事項・資料の確認について ・運営用の書類の内容と書き方について。 ・使用教材について ・初級クラスの受講者と託児への対応について 2. 年間カリキュラムについて ・3項目を年間カリキュラムの柱とする。 ・3項目の具体的なことについて 3. 授業について(共通認識事項) ・会話の導入のポイントについて ・新出語彙導入時の注意について ・語彙テストの実施について
6 月 26 日 15:30～18:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室	兼松 文子 村松 幸子 辻 暁子 長町 順子 古山 陽子 森 清 真鍋 憲昭 杜 美智 大坂 庄司 森井 哲也	1. 事務確認 2. 子ども部の運営について 3. 親部の運営について	1. 事務確認 1) 参加申し込み書提出 2) 購入教材の確認 3) 次回運営委員会の日程について 2. 子ども部の運営について 1) 講師(全体学習担当者)の役割確認について 2) 個人記録表(個別学習担当者)、出席簿の書き方について 3) 7月の全体学習担当者 4) 学習者の現状報告 5) 学習者への連絡について 3. 親部の運営について 1) 担当講師、補助者の報告があった。
7 月 22 日 17:30～19:00	徳島県労働者福祉協議会ミーティングルーム	関口 明子 兼松 文子 辻 暁子 玉置 房 長町 順子 村松 幸子 杜 美智 山溝十糸子 森井 哲也 森 清	1. 事務確認 2. 協議事項 3. 2ヶ月を終えた現時点での課題	1. 事務確認 1) 購入教材の確認 2) 個人記録表および出席簿の書き方について 2. 協議事項 <子ども部> 1) 全体学習担当者の役割確認 2) 8月の全体学習担当者 3) 学習者の現状報告 4) 学習者への連絡について 5) 子どもとスタッフのマッチングについて <親部> 1) 7月の報告

				7月17日の教室の報告があった。 3. 2ヶ月を終えた現時点での課題 1)会場が変わる際の学習者への連絡方法 2)全体学習のあり方と位置づけ
8月28日 15:20～17:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室	山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 西田 知子 長町 順子 古山 陽子 玉置 房 森 清 真鍋 憲昭 谷口 真弓 賀川真由美	1. 事務確認 2. 協議事項	1. 事務確認 購入教材の確認をした。 2. 協議事項 ＜子ども部＞ 1)子どもの安全と保険について 2)9月の全体学習担当者 3)学習者の現状報告 4)帰宅時における確認 ＜親部＞ 1)8月の報告
9月25日 15:20～17:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室	山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 長町 順子 玉置 房 竹治 博 森 清 杜 美智	1. 事務確認 2. 協議事項	1. 事務確認 1)購入教材の確認をした。 2)保険加入料について 2. 協議事項 ＜子ども部＞ 1)写真撮影担当者について 2)学習者の現状報告 3)学校との情報交換について 4)10月の全体学習担当者 5)学習者の現状報告 6)帰宅時における確認 ＜親部＞ 1)9月の報告
10月23日 15:20～17:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)小会議室	山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 古山 陽子 森 清 杜 美智 谷口 真弓	1. 事務確認 2. 協議事項 3. その他	1. 事務確認 2. 協議事項 ＜子ども部＞ 1)11月の全体学習担当者 2)学習者の現状報告 ＜親部＞ 1)10月の報告 2)12月の開催日について 3. その他 1)受講者のアンケートについて 2)謝金額について 3)スタッフの配置について 4)年内最終日について
11月19日 10:30～12:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)小会議室	兼松 文子 山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 玉置 房	＜親部＞ 1. 現状の確認 2. 問題点とその対策 3. 後期カリキュラムの確認	＜親部＞ 1. 現状の確認 ・開催場所の周知について ・学習者の状況について ・授業内容について 2. 問題点とその対策 ・開催場所の周知について ・受講者再募集について 3. 後期カリキュラムの確認 ・学校の教師、他の保護者との適切な会話 ・学校情報の理解

				・日本文化、事情理解
11月27日 15:20～17:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室	兼松 文子 山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 長町 順子 古山 陽子 玉置 房 森 清 真鍋 憲昭 木内富美子 賀川真由美 志摩 富夫 吉田 尚子	1. 事務確認 2. 協議事項 3. その他	1. 事務確認 2. 協議事項 ＜子ども部＞ 1) 12月の全体学習担当者 2) 学習者の現状報告 ＜親部＞ 1) 11月の報告 3. その他 1) 受講者のアンケート項目について 2) 12月の全体学習の持ち方について 3) 寺子屋メールでの子どもの情報管理について
12月18日 15:20～17:30	徳島県国際交流プラザ(トピア)小会議室	兼松 文子 辻 暁子 長町 順子 古山 陽子 玉置 房 竹治 博 森 清 杜 美智 岡 久美 賀川真由美 志摩 富夫	1. 1月全体学習担当者について 2. 学習者の現状報告について 3. 親部の報告 4. 話し合い事項	1. 1月全体学習担当者について 2. 学習者の現状報告について 3. 親部の報告 4. 話し合い事項 1) 受講者へのアンケートについて 3) 3月以降の寺子屋について 4) トピアの会議室利用について
1月29日 15:20～17:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室	山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 森 清 真鍋 憲昭 杉本 恵 志摩 富夫	1. 事務確認 2. 協議事項	1. 事務確認 2. 協議事項 ＜子ども部＞ 1) 2月、3月の全体学習担当者について 2) 学習者の現状報告 3) 2月5日、19日のクレメント5階への誘導について 4) 3月18日以降の寺子屋について ＜親部＞ 1) 1月の報告 2) 次年度以降の開催について
2月26日 15:30～17:00	徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室	兼松 文子 山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 長町 順子 玉置 房 竹治 博 森 清 岡 久美 志摩 富夫 吉田 尚子	1. 事務確認 2. 協議事項	1. 事務確認 1) 謝金・交通費・教材費立替金等の支払いについて 2) 保険加入料の集金状況について 2. 協議事項 ＜子ども部＞ 1) 3月の全体学習担当者について 2) 学習者の現状報告 ＜親部＞ 1) 2月の報告 ＜その他＞ 1) 3月、4月の運営委員会の日程 2) 教材、カメラの保管について
3月18日 15:40～17:20	徳島県国際交流プラザ(トピア)小会議室	山溝十糸子 村松 幸子 辻 暁子 長町 順子	＜子ども部＞ 1. 今年度の成果について 2. 今年度の課	＜子ども部＞ 1. 今年度の成果について 2. 今年度の課題と改善案 3. 学習者の現状報告

		古山 陽子 加村 匡子 森 清 杜 美智 谷口 真弓 賀川真由美 志摩 富夫	題と改善案 3. 学習者の現 状報告 ＜親部＞ 1. 今年度の報 告と課題につ いて	＜親部＞ 1. 今年度の報告と課題について
--	--	--	--	--------------------------

【写真】



平成 23 年 5 月 7 日第 1 回



平成 23 年 5 月 14 日第 2 回



平成 23 年 7 月 22 日第 6 回

3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 親子にほんご寺子屋
- (2) 開催場所 徳島県国際交流協会(トピア)、とくぎんトモニプラザ、クレメントサロン
- (3) 学習目標

＜子ども部＞

教科学習に必要な日本語を身につけるとともに、年齢や国籍を越えて、子どもたち同士で考え学びあう。

＜親部＞

学校からの通知文を読み取ったり、教員や他の保護者と円滑なコミュニケーションをしたりするのに必要な日本語を習得する。日本の学校のしくみを知る。

- (4) 使用した教材・リソース

＜子ども部＞

「かんじだいすき1～6」「かんじだいすき(絵カード)1・2」「かんじだいすき 国語算数・理科社会」「こどものにほんご1・2」「日本語学級1・2」「漢字が楽しくなる本1～6」「はじめてのあいいうえおトランプ」「マリアとケンのいっしょににほんご」「用例付 学習語彙 5000 語 日中対訳」、「こくご1(上)(下)」「国語1・2・3」「中学国語1」「現代の国語1」「こくご1～6すべて」
「くもんのカード『マーク標識カード第1集・第2集』『くだものやさいカード第1集・第2集』『生活道具カード』『たべものカード』『こよみカード』『のりものカード』『こん虫カード』『動物カード』『花と木カード』『ぶんカード第1集・第2集』『くだものやさいカード』『お店カード』」
「童謡カード第1集～第3集」「日本地図パズル」「漫画 日本の歴史2・3・4・5・6・9・12・13」
「旺文社小学国語辞典」「旺文社小学漢字辞典」「整理と対策 国語」「わたしたちの道徳1(2008)」
「未来へひろがる数学1・2」

＜親部＞

にほんご敬語トレーニング」「マンガでわかる実用敬語初級編」「学校の行事・おつきあいのあいさつ・文書」「英語で教える日本の暮らしとマナーのコツ」「にほんご これだけ！1」「くもん式カード こよみカード、俳句カード」「季節で学ぶ日本語」「初級から中級へ日本語ドリル 語彙」「日本バイリン

ガル辞典」「家庭の医学」、学校の通知プリント、Web サイトー（ピナツボ復興むさしのネット、学校で使える素材・ツール）

(5) 受講者の募集方法

- ・H22 年度までの「にほんご寺子屋」の受講者に継続受講を勧めた。
- ・JTM 会員を通じて、知り合いの外国人に周知した。
- ・県および市教育委員会に周知の協力要請をし、連絡便でのチラシ配付または直接送付を行った。
- ・国際交流団体などを通じて、関係する外国人に周知をした。
- ・徳島県国際交流プラザ等、公共施設のロビーにてチラシの配布、掲示を行った。
- ・マスコミに案内依頼をした。

(6) 受講者の総数 40人(子ども部28人、親部12人)

出身・国籍別内訳

<子ども部>

フィリピン11人、中国4人、モンゴル4人、インドネシア3人、エジプト2人、タイ2人、アメリカ2人

<親部>

中国5人、フィリピン2人、アメリカ2人、タイ1人、ロシア1人、モンゴル1人

(7) 開催時間数(回数) 71 時間(子ども部 56時間、親部15時間)

全37回(うち 10 回親部併設)

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
1	6月5日 13:30～15:00	1.5時間	10人	フィリピン・タガログ語(5人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人) エジプト・アラビア語(2人)	教授者1人 補助者10人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・他己紹介
2	6月12日 13:30～15:00	1.5時間	10人	フィリピン・タガログ語(6人) エジプト・アラビア語(2人) インドネシア・インドネシア語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者10人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・「います」「あります」ゲーム
3	6月19日 13:30～15:00	1.5時間	5人	フィリピン・タガログ語(5人)	教授者1人 補助者11人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・父の日特集
		親部 1.5時間	3人	中国・中国語(2人) フィリピン・タガログ語(1人) 託児児童(2人)	教授者1人 補助者1人 保育士2人	自己紹介 学校の通知文の読解指導 先生との会話指導 ハンドアウト教材使用
4	6月26日 13:30～15:00	1.5時間	9人	タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(4人) エジプト・アラビア語(2人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者10人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・紙芝居

						(日本昔話)
5	7月3日 13:30～15:00	1.5時間	8人	タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(4人) エジプト・アラビア語(2人)	教授者1人 補助者8人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・大型絵本 読み聞かせ
6	7月10日 13:30～15:00	1.5時間	9人	フィリピン・タガログ語(5人) タイ・タイ語(2人) エジプト・アラビア語(2人)	教授者1人 補助者9人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・読み聞かせ
7	7月17日 13:30～15:00	1.5時間	5人	フィリピン・タガログ語(4人) インドネシア・インドネシア語(1人)	教授者1人 補助者9人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・科学絵本を使って実際に実験
		親部 1.5時間	5人	フィリピン・タガログ語(2人) 中国・中国語(3人) 託児児童(3人)	教授者1人 補助者1人 保育士2人	学校の通知文の読解指導 先生との会話指導 学校行事とその関連語彙の紹介 ハンドアウト教材使用
8	7月24日 13:00～15:00	1.5時間	5人	タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(3人)	教授者1人 補助者11人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・夏に関する言葉・読み・書き
9	8月7日 13:00～15:00	1.5時間	4人	中国・中国語(1人) タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(1人)	教授者1人 補助者10人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・読み聞かせ
10	8月21日 13:00～15:00	1.5時間	11人	フィリピン・タガログ語(5人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人) インドネシア・インドネシア語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者12人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・国当てゲーム ・ストーリー作り ・読み聞かせ
11	8月28日 13:00～15:00	1.5時間	12人	フィリピン・タガログ語(7人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人) モンゴル・英語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者1人 補助者8人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・絵本読み聞かせ
		親部 1.5時間	7人	中国・中国語(2人) フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(1人) ロシア・ロシア語(1人) アメリカ・英語(2人) 託児児童(3人)	教授者1人 補助者1人 保育士2人	学校の通知文の読解指導 先生との会話指導 学校連絡帳の読み方、書き方の指導 ハンドアウト教材使用
12	9月4日 13:30～15:00	1.5時間	7人	タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(4人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者11人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習

						全体学習 ・命令ゲーム ・フルーツバスケット ・歌
13	9月11日 13:00～15:00	1.5時間	8人	タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(5人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者8人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・県名を覚える
14	9月25日 13:30～15:00	1.5時間	4人	タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(2人)	教授者1人 補助者8人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・植物
		親部 1.5時間	3人	中国・中国語(1人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) 託児児童(2人)	教授者1人 補助者1人 保育士2人	学校の通知文の読解指導 他の保護者との会話指導 学校での禁止事項とその 関連語彙の紹介 ハンドアウト教材使用
15	10月2日 13:30～15:00	1.5時間	5人	タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(1人) 中国・中国語(2人)	教授者1人 補助者7人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・読み聞かせ
16	10月9日 13:30～15:00	1.5時間	3人	タイ・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(1人)	教授者1人 補助者4人	個別学習 ・日本語学習 ・教科学習 全体学習 ・実りの秋について
17	10月16日 13:30～15:00	1.5時間	3人	フィリピン・タガログ語(2人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者4人(うち2人交代で託児)	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・読み聞かせ
		親部 1.5時間	3人	フィリピン・タガログ語(1人) 中国・中国語(2人) 託児児童2人	教授者1人 補助者1人	学校の通知文の読解指導 他の保護者との会話指導 子どもの病気とその関連 語彙の紹介 ハンドアウト教材使用
18	10月23日 13:30～15:00	1.5時間	4人	フィリピン・タガログ語(3人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者7人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・十二支の説明 ・早口言葉 ・絵本
19	11月6日 13:30～15:00	1.5時間	7人	フィリピン・タガログ語(3人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者7人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・早口言葉
20	11月13日	1.5時間	7人	フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(2人)	教授者1人	個別学習 ・教科学習

	13:30～15:00			中国・中国語(1人) インドネシア・インドネシア語(2人) モンゴル・英語(1人)	補助者8人	・日本語学習 全体学習 ・絵本読み聞かせ ・なぞなぞ遊び
21	11月20日 13:30～15:00	1.5時間	5人	フィリピン・タガログ語(2人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者7人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・ジェスチャーゲーム ・歌 ・絵本読み聞かせ
22	11月27日 13:30～15:00	1.5時間	6人	フィリピン・タガログ語(2人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者7人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・数あてクイズ(レゴ)
		親部 1.5時間	3人	中国・中国語(3人) 託児児童(3人)	教授者1人 補助者1人 保育士2人	学校の通知文の読解指導 他の保護者との会話指導 子どもの病気とその関連 語彙の紹介 ハンドアウト教材使用
23	12月4日 13:30～15:00	1.5時間	5人	フィリピン・タガログ語(2人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者7人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・読み聞かせ「ターシャの かずのほん」 ・数の数え方
24	12月11日 13:30～15:00	1.5時間	8人	フィリピン・タガログ語(2人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人) インドネシア・インドネシア語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者8人 (うち交代で2 人託児)	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・漢字探しゲーム
		親部 1.5時間	4人	フィリピン・タガログ語(1人) 中国・中国語(3人) 託児児童(4人)	教授者1人 補助者1人	学校の通知文の読解指導 他の保護者との会話指導 子どもの病気とその関連 語彙の紹介 ハンドアウト教材使用
25	12月18日 13:30～15:00	1.5時間	8人	フィリピン・タガログ語(3人) タイ・タイ語(2人) インドネシア・インドネシア語(3人)	教授者1人 補助者11人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・絵を使ったビンゴゲーム
26	1月8日 13:30～15:00	1.5時間	3人	インドネシア・インドネシア語(1人) モンゴル・英語(1人) フィリピン・タガログ語(1人)	教授者1人 補助者6人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・正月の遊び(こま・けんだ ま・福笑い・カルタ)
27	1月15日 13:30～15:00	1.5時間	8人	フィリピン・タガログ語(2人) タイ・タイ語(2人) 中国・中国語(1人) インドネシア・インドネシア語(2人)	教授者1人 補助者6人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習

				モンゴル・英語(1人)		・絵本読み聞かせ ・助数詞
28	1月22日 13:30～15:00	1.5時間	5人	フィリピン・タガログ語(2人) タイ・タイ語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者8人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・紙ヒコキ作り
29	1月29日 13:30～15:00	1.5時間	4人	フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者5人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・紙芝居
		親部 1.5時間	3人	中国・中国語(3人) 託児児童(3人)	教授者1人 補助者1人 保育士2人	学校の通知文の読解指導 他の保護者との会話指導 学校でのマナーとその関 連語彙の紹介 ハンドアウト教材使用
30	2月5日 13:30～15:00	1.5時間	4人	フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者5人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・福わらい ・節分豆まき
31	2月12日 13:30～15:00	1.5時間	8人	フィリピン・タガログ語(3人) タイ・タイ語(2人) インドネシア・インドネシア語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者6人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・バレンタインデーの歴史
32	2月19日 13:30～15:00	1.5時間	5人	フィリピン・タガログ語(2人) タイ・タイ語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者7人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・漢字神経衰弱 ・漢字早書き競争
33	2月26日 13:30～15:00	1.5時間	5人	フィリピン・タガログ語(3人) モンゴル・英語(2人)	教授者1人 補助者6人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・日本の方言 ・絵本の朗読(BGMつ き)
		親部 1.5時間	4人	中国・中国語(3人) モンゴル・英語(1人) 託児児童(3人)	教授者1人 補助者1人 保育士2人	学校の通知文の読解指導 先生との会話指導 学校でのマナーとその関 連語彙の紹介 ハンドアウト教材使用
34	3月4日 13:30～15:00	1.5時間	6人	フィリピン・タガログ語(2人) 中国・中国語(1人) インドネシア・インドネシア語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者6人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・あいさつやお礼の言い 方 ・絵本読み聞かせ

35	3月11日 13:30～15:00	1.5時間	6人	フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(2人) インドネシア・インドネシア語(2人) モンゴル・英語(1人)	教授者1人 補助者11人 (うち交代で2人託児)	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・東日本大震災と防災 ・絵本読み聞かせ
		親部 1.5時間	3人	中国・中国語(2人) モンゴル・英語(1人) 託児児童(2人)	教授者1人 補助者1人	学校の通知文の読解指導 保護者との会話指導 学校でのマナーとその関連語彙の紹介 ハンドアウト教材使用
36	3月18日 13:30～15:00	1.5時間	5人	中国・中国語(1人) モンゴル・英語(2人) タイ・タイ語(2人)	教授者1人 補助者7人	個別学習 ・教科学習 ・日本語学習 全体学習 ・絵本読み聞かせ ・絵本ペーパーサート作り
37	3月25日 13:00～15:00	2 時間	4 人	中国・中国語(2人) インドネシア・インドネシア語(1人) フィリピン・タガログ語(1人)	なし (参加スタッフが随時指導)	(課外授業) 異文化理解 絵本ペーパーサート朗読発表

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

標準的な流れ

<子ども部>

13:10 ミーティング

講師の進行により、補助者が個別学習を担当する子どもの確認と、注意点、全体学習の内容を確認する。

13:20 受付開始(出席簿に○を記入、学習を始める準備)

13:30 個別学習開始

学年や個人の進度に応じて、個別学習担当者が教材を選び、1対1、または1対2程度のグループで学習をする。

14:30 全体活動

講師の進行により、全員で一緒に学習する。補助者は子どものサポートをする

15:00 終わりのあいさつ

片付け、個人記録表(引継ぎ簿)に記入、担当した子どもの退室確認。

授業終了後 講師はその日の指導記録簿(報告書)をスタッフに送付する。

<親部>

13:15 ミーティング

講師の進行により、補助者が学習内容と会話学習のプレゼンの際の役割分担などを確認する。
託児をする受講者は、保育士に児童を預ける。

13:20 受付開始(出席簿に○を記入、学習を始める準備)

13:30 授業開始

講師が進行し、補助者は会話や読み書き時の個別サポートをする。ただし、入門レベルの学習者がいた場合は、補助者が別途個別指導をする。

① 前回の授業の語彙テスト

② 話す学習 場面シラバスにより、先生やほかの保護者との会話学習をする。

③ 読む学習 学校からの通知文の読み取り方を学習する。

④ 書く学習 学校に提出する書類を書いてみる。

⑤ 情報を知る 学校の行事やしきみなどを学習する。

※入門レベルの受講者がいた場合は、別グループで補助者とともに初級会話の学習をする。

15:00 次回テストをする語彙を提示。終了。託児をしている人は児童の迎え。

授業終了後、講師は、指導記録簿(報告書)を、他の講師に送付する。

授業の一例(指導記録簿より抜粋)

<子ども部>

第4回

本日はかなりの猛暑で子どもの参加が少ないかと心配した。しかし遅刻者もいたが9人の参加がありスタッフ全員でマンツーマンの個別学習に取り組めた。

一時間の学習時間は低学年には少し長いようだが、熱心に取り組む子どもが多かった。絵カードがとても人気で次々と自分で選んで言葉の学習をしていた。中にはいすで遊びだす子もいたが、スタッフの言うことはちゃんと聞き信頼関係が出来てきているように思えた。高学年以上の子どもたちはほとんど休憩も取らず熱心にそれぞれの課題に取り組んでいた。

全体学習は暑い節電の夏に向けてどうやって涼しく過ごすか。涼しくなるものは何か。と言うことであれこれみんなでアイデアを出し合った。海で泳ぐとか氷を食べるとかの意見が出て、クーラーの話題になった時、「団扇」「扇子」「扇風機」「風鈴」と紙に書いた漢字を順次示しながら実物を出して見せた。「打ち水」にも興味を示した。

最後にとっておきの涼しくなる方法「怖い話を聞く」として「くわすにようぼう」の読み聞かせをした。みんなとても静かに集中してこわい話の世界に入ってくれました。読み終わったあと「あまり涼しくならない。」と言った子がいたり、怖すぎて泣き出したりし子もいた。

第24回

この教室が毎週日曜日になってから、子ども同士も親しくなり、我が家に帰ってきたような安心に満ちたいい顔になったと思う。以前は落ち着きがなく、ことばも乱暴な言葉遣いだった子どもも、ほんとうに熱心に、楽しそうに勉強していて、言葉遣いも丁寧なことばで話しているのを見て、良くなったことを我が身のように嬉しく思った。

第35回

約1時間の個別学習では、国語の教科書を読んだり、漢字や理科を勉強したり、高校生は敬語の勉強をしたりしてそれぞれ熱心に取り組んでいた。小学校2年生を担当したスタッフが、「国語のプリントに複文の中の主語・述語を問う問題があり、かなり難しいことを勉強しているのにびっくりした。日本人の子どもでもわかりづらいのではなかろうか。」と言っていた。

全体学習は、今日が東日本大震災発生からちょうど1年となるために、震災関係の新聞掲載の写真をしながら地震や津波、防災などについて考えた。まず地図を見て、地震発生の場所と自分たちの住んでいる徳島を確認した。

スタッフで実際に気仙沼に支援に行かれた方の体験をお聞きした。ある生徒が、よく火山や地震のことを勉強していたので、<地震はどうして起きるのか>ということを前に出て発表してもらった。

14時46分に1分間の黙祷を行った。黙祷の前に、黙祷の意味を話し、後で感想を聞いたらひとりの子どもが「悲しい気持ちになった。」と言っていた。

黙祷の後で、「ガタガタ村と大ナマズ」の絵本を読んだ。いつ来るか、誰にもわからない巨大地震。その時、親子の命を守りたいという切実な思いから生まれた防災レッスンの本だとのことだ。聞いていた子どもたちは、大ナマズの正体が地震であること、家や学校はなくなっても大事な命やなまかはちゃんと残っているということを少しは理解したようだ。

第36回

今日は、小会議室であったが、6人の学習者であったので、こじんまりとして、いい雰囲気での学習すること

ができた。

個別学習は、来日して7年目の高校2年生は天声人語を読み、2月に来たばかりの子は、「ひらがな」の学習に取り組むなど、その子に応じた学習ができたと思う。

全体学習は、「かんじだいすき」(三)の最後のお話である「だいこんとにんじんとごぼう」を読み聞かせた後、来週の交流会に使うことを言って、それぞれだいこんやにんじん、王様、風呂などそのお話に出てくる絵を描いてもらった。みんな熱心に大きく描いてくれたが、丁寧に描くので、時間が足りなくなってしまった。25日に帰国する子もいたが、最後までしっかりと絵を描いてくれた。最後に写真を撮ってお別れを言ったが、とても名残惜しかった。

交流会では、描いてくれた絵を使って、みんなに発表をしてもらうことにしている。



個別学習



個別学習(全景)



全体学習(講師の指示を理解する)



全体学習(仲間といっしょに考える)

<親部>

第7回

前回の授業では、「個人面談の希望日」を書く練習だったので、今回はその流れで、実際に個人面談に出てわからない言葉を先生に尋ねるというテーマで、部屋に入るところから出るところまで、先生との標準的なやりとりを中心に会話練習を行った。受講者のうち2人は来週が面談日ということでタイムリーな練習になったと思う。学校の行事の説明では、実際に経験した人はよくわかっているが、未就学児のお母さんは、初めて知ることや、知りたいことがあり、質問がよく出た。その際、私が回答したり、教員経験のある補助者のYさんに教員の立場から回答してもらったり、ほかのお母さんに回答してもらったりと参加者全員でいろいろなやりとりができた。教室というと講師对学习者となりがちだが、この教室では先輩お母さんと、後輩お母さんがアドバイスをしたり、してもらったり、いい情報交換の場にもなり、慣れない土地で子どもを育てていく上でお互いが励みになるだろうと、皆さんを見ながらとてもほほえましい気持ちになった。

写真の申し込みの練習は、学校の通知文を読んで、希望の写真NOと、金額の合計、子どもの学年、組、番号、氏名を書くだけの簡単なものだが、見慣れない様式なのか、戸惑っている人もいた。学校によって形式は違うと思うが、こういった手紙の出し方もあるということを知ってもらえたのはよかったと思う。

第11回

新しく参加した人も、日本語のレベルはほかの人とあまり変わらなかったのも、一緒に学習することができた。

今回の会話の練習は、「忘れ物を子どもに渡してもらうよう先生に頼む」というテーマなので、まず、「今までに子どもが忘れ物をしたことがあるか。その時、どうしたか。」ということを尋ねた。水筒とか、体操服とか出てきた。その時、どうしたか聞くと、先生がたくさんいる部屋へ持って行ったとのことだった。その部屋を何

と言うのかという質問が出たので「職員室」と言うことと答えた。「お世話になっております」の使用の場面とそれに対する答え方の質問も出た。ペアで会話を作り、前に出て動作を付けて発表してもらったが、皆、楽しそうだった。

「家で保護者がすること」の学習はなかなか大変そうだった。学校からいろいろな連絡プリントをもらうが、非漢字圏の人は読めないとのことだった。配偶者が日本人の場合は読んでもらっているようだ。大体わかるという学習者も今日配布した「運動会の案内」は言葉が難しくてよく読めないと言っていた。時間割表を見て、科目の確認をしていた時、「社会」とは何なのかという質問がでた。歴史や経済・政治・交通など生活に関するいろいろなことを勉強する科目だと言うと、中国・フィリピン・ロシア・タイの今日の参加者の国ではそれぞれ別々に勉強するとのことだった。高校になると専門に分かれるが、小・中学校の「社会科」は日本だけが特別なのだろうか。

今回初めて子ども部と親部を同じフロアで行った。間仕切りしただけだったので、子どもたちが時々「お母さんも勉強しているんだ」という顔で興味深そうに覗いていた。



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

<子ども部>

月1回開催していたときも個別学習と全体学習を実施し、遅々とした歩みではあっても日本語を徐々に習得し、日本に慣れて行っていたが、週1回にすることで、目標を持って勉強する習慣が付き、「わかる漢字の数が増えた」「学校の勉強がわかるようになった」「日本語が上手になった」と自分で自覚できた子もいた。

また、毎週通うことで、子ども同士のコミュニケーションもできるようになり、友達ができた喜びも多い。寺子屋が自分の居心地のいい場所になっている。

<親部>

初級レベルの日本語非母語話者が多い中、学校で使用されている語彙は初めて聞いたり目にしたりする言葉でとても難しい。その上、場面に合った敬語の使用、日本文化の理解、マナー等を踏まえてコミュニケーションを図ることはわれわれが想像するには余りあるものがある。

初回に学習者にどのように学校とのかかわりを持っているか尋ねたところ、ほとんどが先生と必要最低限の連絡事項のやり取りだけをするだけだったり、あるいは、パートナー、親戚(日本人)に対応してもらったりするという回答が多かった。

しかし、授業を重ねるごとに、保護者会で他の日本人保護者に分からないところが質問できた、学級懇談でうまく自己紹介ができた、日本の学校の様子が良く分かってきたとの声も聞けるようになった。終盤、初級後半レベルの学習者が新たに受講し始めたが、日本語力が未熟であっても熱心な受講生のほうが、明らかに学校語彙を多く取得し、使いこなしていたことが見て取れた。また多くの学習者から、日本の学校行事やシステム、マナー等を理解する上でも、すぐに役立つとてもいい講座だったと評価してもらった。

(2) 学習者の習得状況

<子ども部>

日本滞在歴も年齢もさまざまななか、個別学習では、子どもにスタッフが一对一でつくことがほぼ毎

回できたので、日本語の学習や教科学習、宿題などその子に応じたきめ細やかな対応がとれ、それぞれの子どもに向上が見られた。また、前回何をしたかを記録し、次のスタッフへの連絡がスムーズに行えたことで、連続性のある学習ができ、積み重ねていくことで、良い結果が得られた。

全体学習も、日本の行事を取り上げた日本文化の理解を深める授業、日本地図を使った社会科を取り入れた授業、日本語の習得に重きにおいた授業、絵本の読み聞かせなど多岐にわたり、また密接に結びついて、日本への理解と日本語の上達が促進された。さらに、異年齢、他民族の子どもと一緒に同じことをすることによって親しみがわき、よりよいコミュニケーションを図ろうとして日本語を使う度合いも増え、仲間意識も芽生えた。

<親部>

学校で使用されている語彙(学校の施設、学習道具、人物、時間等の名称)、学校行事や関連の語彙(入学式、学級懇談、家庭訪問、授業参観、運動会、学級閉鎖…)等の多くの語彙を学習した。1回の授業で重要な語彙5つを取り上げ、自宅学習をしてもらうようにいい、次回に読みと意味理解のテストをすることにより、定着が図れた。

日本の学校の行事や仕組みを自国とものと比べ、分からないことを質問することにより、理解しているようだった。

学校のお便りは、公文書特有の言い回しはなかなか分かりづらようだったが、語彙の説明を聞き、ルビを振ること、意味も読み方も理解できるようになった。また学校に提出しなければならない申込書等の書き方も学習したことにより、今後同様の文書を受け取った際には、自力で理解し、対応できる機会が増えてくることと思われる。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

<子ども部>

昨年度まで自主運営で行ってきた月1回定例の開催では、十分な数のスタッフを確保することが難しく、受講者も1ヶ月、間が空くことで学習へのモチベーションを維持していくことに難しい面があったと思われるが、本事業で週1回に拡大して開催できるようになったことで、スタッフが自分の都合のよい日を選んで参加できるため、積極的な参加が得られるようになり、受講者一人一人によりきめ細かな指導をすることができるようになった。また受講者も、継続して学習できる環境になったことで、習得したことを忘れずに積み上げていくことができるようになり、このことは、生活言語・学習言語両方の向上につながったと思われる。また学習だけではなく、毎週教室に行けば、気の許せる仲間と、困ったことを相談できる大人がいるということで、自分の居場所がここにあるという安心感を得られ、心の安定にもつながっていることが見受けられた。

<親部>

学校からの通知文の理解や学校教員や日本人保護者とのコミュニケーションに必要な日本語やマナーを学ぶことができる場所として、日本語の支援を必要とする保護者にとっては画期的な教室となった。ほとんどの受講者が個々の事情で全の授業に出席することは難しかったが、出席したときにはいつも、学校の先生との話し方や、日本の学校のことをたくさん学べてとても良かった、面白かったという評価が得られた。

また、この教室で学んだことにより、学校からの先生の電話が以前ほど怖くなくなったという感想や、未就学児を持つ受講者も、日本の小学校へ行かせるのが楽しみだとの感想が得られた。日本語非母語話者でありながらも、地域で子どもたちを育てていかなければならない受講者たちに、子育てに対して安心感や自信を持ってもらえるようになったことは、教室を開催した大きい成果のひとつであったと思われる。

また、会場に隣接した場所で託児をすることもできたため、日頃は小さい子どもがいて集中して学習する機会が持てない人も、安心して受講することができたようだ。特にそのうちの一人は全ての授業に出席しており、日本語力の向上にはめざましいものがあった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回の事業実施により、次のとおり、地域支援者、県教育委員会、学校、国際交流協会等との連携が飛躍的に進んだ。

<地域支援者>

チラシを作成し、広く周知したことや、別区分の「外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導者養成セミナー」で、教室の見学日を設けたことで、会員外の方にも関心を持ってもらうことができた。その結果、新たに4名の方が入会し、スタッフとして積極的に子どもたちの指導にあたってくれるようになり、指導者側の体制を充実させることができた。

また、会員の一人が主宰するNPO法人が、独自で地元である県西部で地域支援者を募り、子どもたちの支援を始めることとなり、本事業での取り組みを、ひとつのモデルとして参考にしてもらうことができた。

<県教育委員会>

今まで、公的な協力を得ることは難しかったが、本事業では、県教育委員会から公式に教室開催の紹介をしていただけることとなった。また今回の取り組みは、別区分の「外国にルーツを持つ子どもたちのための日本語指導者養成セミナー」とともに、非常に高く評価され、その結果、県の補助事業として、支援要請のあった学校に本会から講師を派遣し取り出し授業をするという活動の実現につながった。当該の子どもの一部は本事業の「親子にほんご寺子屋」にも参加しており、学内外の学習の結び付けを行うことも可能となった。また、平成24年1月5日には、県教育委員会主催の「あわ(OUR)教育発表会」においてブースを出展し本事業をアピールする機会をいただき、県内各地の学校関係者にこの取り組みを知っていただくとともに、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援についても深い関心を寄せてもらうことができた。

<学校関係者>

受講している子どもの学校(担任など)が希望する場合は、連絡帳により子どもの学習状況をお互いに報告するシステムを設け、子どもの学校での様子と寺子屋の様子を共有することにより、一人の子どもを地域支援者と学校が連携して支援するというしくみづくりが可能となった。

<(財)徳島県国際交流協会>

2005年度より毎年、(財)徳島県国際交流協会より委託を受けているサマースクール(夏休み子ども日本語教室)に、「親子にほんご寺子屋」の受講者が参加し、またサマースクールに初めて参加した子どもが、「親子にほんご寺子屋」に参加するようになり、双方とも、取り組みを活発化させるという成果が得られた。

(5) 改善点、今後の課題について

① 現状

<子ども部>

- ・出欠の連絡を義務づけてはいないので、事前に受講者の出席状況を把握することが難しい。
- ・全体学習の内容は担当講師に一任しており、毎回の指導報告書を見て、次の回に担当する講師はバランスがとれるよう内容を検討するが、全員の講師がすべての回の内容を把握しているわけではないので、年間を通してみると、内容に偏りも見られた。

<親部>

- ・1ヶ月に1回の授業で、受講者のモチベーションが保ちにくかった。
- ・今回カリキュラムで取り上げた学校行事が適切か、またそれらが地域によって、時期や様式に違いはないか再思考が必要である。
- ・教室開催の周知徹底が十分ではなかった。

② 今後の課題

<子ども部>

- ・欠席者の把握をどれだけできるか。
- ・全体学習の内容の決め方と、全講師の情報の共有の仕方を検討する。

<親部>

- ・受講者のニーズ調査をし、開催日程の見直しをする。 例: 期間を限定し、毎週開講するなど
- ・1年間の学校行事を再度調査し、重要性、時期、地域差等を考慮し、講座のカリキュラムの見直しを図る。
- ・今回は、最初教室の開催場所が一定でなかったことや、情報が伝わった人たちには、小さな子どもの保護者が多いこと、開催日が月に1回だったことから学習者の確保が難しかった。今後は、これらのことを改善し、いっそう、案内の徹底をし、受講者の確保に努める。

③ 今後の活動予定, 展望

<子ども部>

- ・欠席者を事前に把握するには、スタッフから毎回電話連絡するという方法もあるが、家庭の諸事情もあるので心理的負担をかけることが懸念される。そこで、担当をした子どもに、スタッフ自身の個人連絡先を知らせ、休む場合のみ連絡を義務付け、次回担当者に伝える方法を試してみる。
- ・アンケートの回答結果によると、受講者は、現行の個別学習と全体学習の2部構成に概ね満足しているので、引き続き同様の構成で運営することとし、個別学習では、きめ細かな指導を継続し、全体学習については、スタッフの個性や、企画力を尊重しながら、年間計画をたてることも選択肢に入れ、バランスのとれた学習内容にしていきたい。また指導内容を共有するために、現行の報告書で引き継ぐだけでなく、運営委員会(スタッフミーティング)で、全体学習の内容と反省点を話し合う機会を持ったり、さらに密な情報交換をしたりして、受講者にとって有益となる活動をしていきたい。

<親部>

- ・今後も日本語の支援を必要とする保護者のための教室を開講し、学校からの通知文が理解できる日本語力および学校教員や日本人保護者とのよりよいコミュニケーションに必要な日本語やマナーを習得してもらう場所を提供したい。
- ・日本語の支援を必要とする保護者が日本の学校について学べるオリジナル教材の作成を検討していく。

(6) その他参考資料 別紙アンケート回答結果資料あり